

# 高美小学校内 TM だよ!

R8.2.3.NO.29

4年1組の国語「自分だけの詩集を作ろう」の授業におじゃましました。

## ★クイズで自分事に★

詩集が完成し、交流する時間でした。ただ交流会をするだけでなく、内容を読んで、どんなテーマで詩集を作ったのかを当てるといったクイズ形式の交流でした。「クイズがしたい」という言葉は子どもたちから出てきたようです。お互い読み合うだけでなく、つい他人事となって「へえー」で終わってしまいがちですが、クイズにすることで課題を自分事としてとらえることができる子が増えるよう工夫されていました。

## ★計画表の確認★

授業の初めには、単元の計画表を確認していました。毎時間、子どもたちは単元のゴールを意識しながら学習を進めてきたことがよくわかりました。また、4年1組ではすっかりおなじみとなった、本時のスケジュールも全体で確認しながら進めておられました。これがあることで子どもたちは安心して学習を進めることができます。調整的に学ぶ力にもつながっているのではと感じました。

## ★交流タイム★

「早く交流したい!」という子どもたちの気持ちが伝わってきました。完成した詩集のあとがきには、それぞれの詩の特徴や、それらを選んだ理由だけでなく、「楽しんで読んでくれたらうれしいです」といったような、読み手を意識した表現も多く見られました。何のために詩集を作ったのか、よく理解して取り組んでいたのだと感じました。もちろん実際の交流、クイズ大会は大盛り上がり!予想したテーマと違っていても「でも、そのテーマでもいけそうだよ」と前向きに声をかける松岡先生と、正解発表を聞き「あー!そうか!確かに!」と受け止める子どもたちの姿。「考えがいろいろあるからおもしろい」と振り返る子がたくさんいました。素敵な交流会でした。

～まとめ～

詩集を作ったあとに交流会としてクイズ大会を設定することで、子どもたちにとって詩集づくりをする目的がはっきりしました。「どんなテーマにしようかな」「どんな詩をいれようかな」クイズ大会のことを想像して、わくわくしながら詩集を作る子どもたちの姿が、本時の様子からも伝わってきました。後の単元で、自分で詩を作ることも見越して指導されていたので、使われている言葉だけでなく、面白い表現の工夫にもアンテナをめぐらせ、詩を楽しんでいる様子が見られました。松岡先生、4年1組のみなさん、ありがとうございました。

